

京都・健光園70周年
全国の法人と史料交換を！
草創期の日誌出版で

大阪支局発

のドキュメントだ。全国の社会福祉法人と史料の交換を呼び掛けており、将来的には一堂に展示する場を設けたという。

出版されたのは「京都嵯峨 寿楽園日誌」。終戦直後の1949年、養老施設「寿楽園」として開設され、62年に健光園に改称。生活保護法の養老施設は翌年、老人福祉法に位置

付けられ、経済的困窮者らを受け入れる養護老人ホームとなった。

出版のきっかけは2年半前、園の創設に奔走した横川八重さん（故人）が8冊の大学ノートに残した当時の日記が見つかったこと。横川さんのおいで同園前理事長の小國英夫さんが監修を進め、今年5月に700部を刊行した。

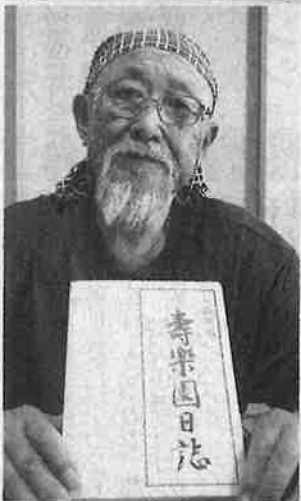
創設当時、10歳だった小國さんは住居を兼

ねた施設内で育ち、「園のお年寄りによく遊んでもらったのを覚えています」。終戦後、生活物資が不足するなか、地元で採れた野菜を分け合ったという。

自治会もつくられ、裁縫の得意な園生が住民の着物を仕立て直したり、のど自慢大会を催したり、地域と歩んだ施設像が浮かび上がる。

日記では「この仕事にしっかりと根をおろしてやらなければ駄目だ」とつくづく前途多難を思う」と創設期の苦しい思いが吐露され、一般庶民には高根の花だったテレビが設置されたときには「園生のよろこびは大変なもの」との描写も。小國さんは「当時の暮らしが生き生きと記され、歴史的にも貴重な史料」と話す。

出版後、小國さんは「歴史的史料の集大成を目指したい」と、互いの史料交換を全国の養護老人ホームや特養に呼び掛け、「一定の史料が集まった段階で公開の場を設けたい」という。



史料交換を呼び掛ける小國前理事長

（今西富幸）